

2015年度 決算報告

2016年7月15日、第154回組合会において2015年度事業報告ならびに収支決算が承認されました。その概要をご報告いたします。

経常収支で19億7187万円の黒字となりました

最大の要因は納付金の減少

2015年度（2015年4月～2016年3月）のIBM健保組合の収入支出決算状況は、収入184億1385万円、支出162億2201万円となり、収支差引で21億9184万円の剰金が生じました。これを経常収支でも、差引19億7187万円と、前年度に続いて黒字を計上することができました。

黒字の要因として挙げられるのは、高齢者医療制度への納付金が前年度比マイナス7.6%と大きな減少となったことです。この納付金は、概算額を拠出して2年後に実際にかかった医療費等をもとに精算するしくみとなっていますが、この精算による戻りが予想以上に多かつたため相殺されて納付金が減少となったものです。一方、収入の大部分を占める保険料については、前年度は保険料率引上げの影響で大きく増加しましたが、本年度は微増にとどまりました。また、主にみなさまとご家族の医療費等に充てられる保険給付費は前年度の減少から本年度は増加に転じています。

このように、納付金の減少を主な要因として2015年度は黒字となりましたが、その納付金のうち後期高齢者支援金については、金額の算定方法に関わる「総報酬割」（5頁を参照）の拡大によってIBM健保組合の場合、2016年度、2017年度と毎年大幅に増え続けることが予想されています。さらに、保険給付費は再び増加傾向を示していることから、今後は予断を許さない状況といえます。

IBM健保組合では、引き続き事業の合理化・効率化を進めながら健康管理のための各種事業や「すこやかサポートPlus」などの充実を図ってまいります。みなさまにおかれては、これらをぜひご活用いただいで健康管理に留意されるときともに、医療機関への適切な受診を心がけていただくようお願いいたします。

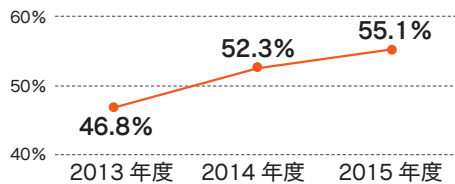
2015年度に実施した事業の効果

医療費等の削減を図りました

ジェネリック医薬品の利用促進

2015年度末現在、ジェネリック医薬品の使用割合は55%を超えました。

●使用割合*



*各年度末の数量ベースによる使用割合。厚生労働省は、これを2017年度末に70%以上に、また2018年度から2020年度末までの間なるべく早い時期に80%以上とする目標を掲げています。

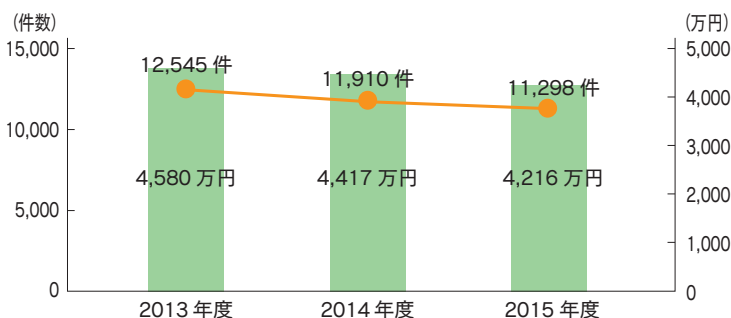
●薬剤費削減額

2015年4月～2016年3月 1億8,140万円 (1億5,654万円)

※()は前年度

柔道整復療養費の削減

件数、金額ともに減少となりました。



2015年度に実施した主な事業

- 1 適用・給付事業**
 - ① ジェネリック医薬品の利用率を高め調剤額の削減を推進
 - ② 調剤直接審査・支払いの推進による医療費事務手数料の削減
 - ③ 柔道整復療養費の削減
 - ④ 重複受診・頻回受診に対する医療費の適正化
 - ⑤ 被扶養者資格確認調査の実施
- 2 保健事業**
 - ① データヘルス計画の立案と実行
 - ② 特定健診および特定保健指導の定着と推進
 - ③ 情報システムの活用および改修



2015年度決算の概要

健康保険

収入	(百万円)
保険料	17,588
その他経常収入	291
経常収入合計	17,879
その他収入 (調整保険料など)	535
収入総額	18,414

前年度比
+1.2%

支出	(百万円)
保険給付費	9,349
納付金	5,018
保健事業費	1,175
その他経常支出	365
経常支出合計	15,907
財政調整事業拠出金	312
その他支出	3
支出総額	16,222

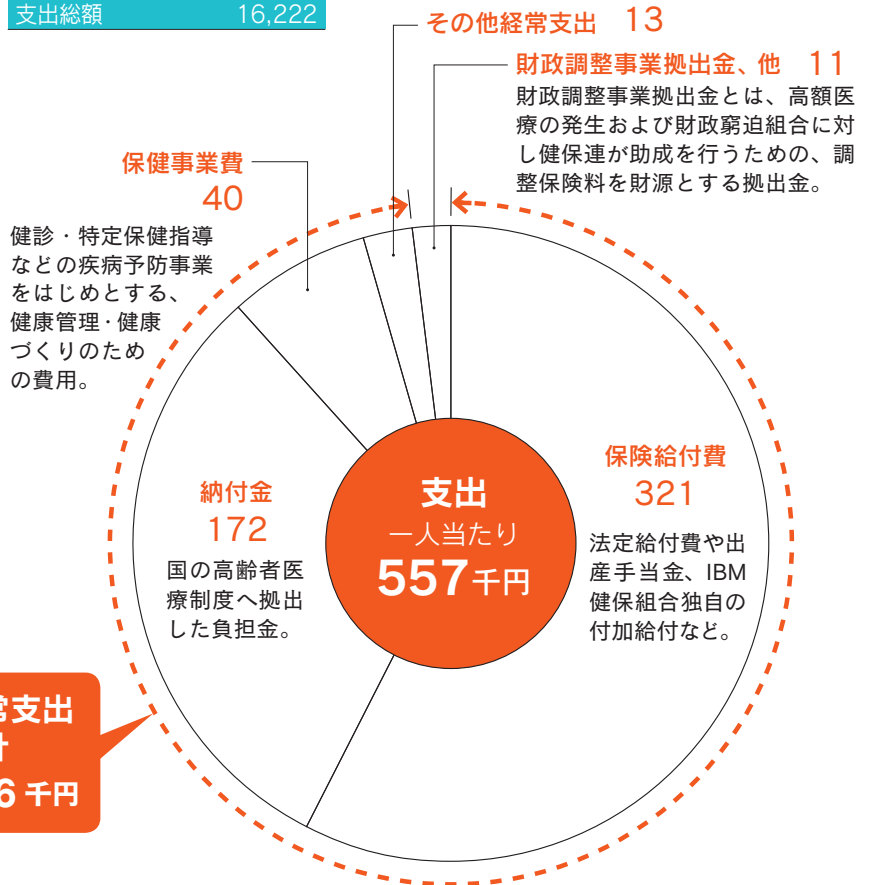
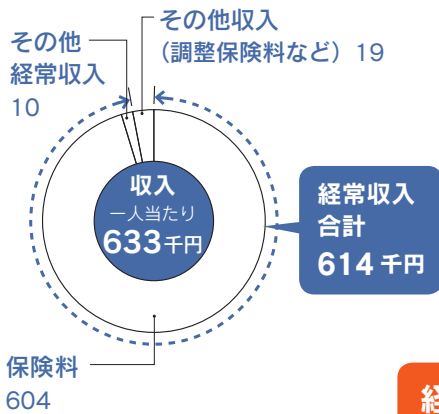
前年度比
+2.8%

前年度比
-7.6%

決算残金処分内訳	(百万円)
財政調整事業繰越金	14
別途積立金	2,178

被保険者一人当たりで見ると…

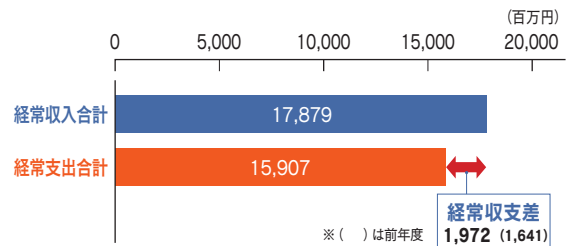
保険料は使われました



2015年度も保険料収入の範囲内で事業経費を賄うことができました

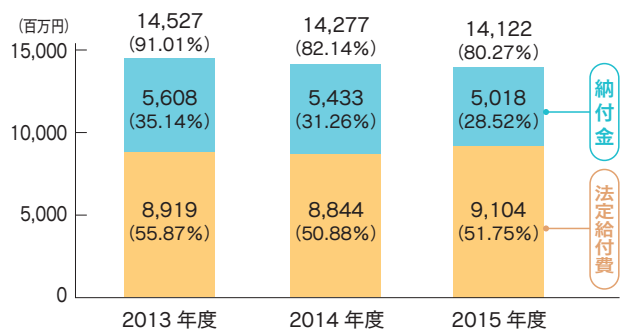
●経常収支状況

保険料収入は微増にとどまりましたが、経常支出の多くを占める納付金が減少となったため収支差はプラスとなり、その差は前年度よりもさらに広がりました。



●義務的経費 (法定給付費+納付金) の推移

義務的経費の保険料収入に対する割合は2年連続で減少し、2015年度は80%程度となりました。納付金の減少が最大の要因ですが、これは精算による戻りなど一時的な状況といえます。また、法定給付費は金額も割合も一転して上昇に転じており、今後は義務的経費全体が再び増加傾向を示すことが懸念されます。



※ () は保険料収入に対する割合

介護保険	
収入	(百万円)
介護保険収入	1,491
繰越金	1
繰入金、他	179
合計	1,671
支出	(百万円)
介護納付金	1,541
介護保険料還付金	1
合計	1,542